



# 運と実力

## Meritocracy

永田円了

「努力と才能で、人は誰でも成功できる」という考え方に潜む問題が見抜けるか。

マイケル・サンデル著『実力も運のうち』(早川書房)では、この問題に確かなデータと分析をもって挑んでいる。人種や性別、出自によらず能力の高い者が成功を手にできる「平等」な世界を、私たちは理想としてきた。しかしいま、こうした「能力主義」がエリートを傲慢にし、「敗者」との間に未曾有の分断をもたらしている、という。

高所得の家庭出身の学生の割合は、米国ハーバード大学を例にとると、上位 20%をしめる年収 11 万ドル (1200 万円) の家庭出身の学生の割合は 67%。日本でも東京大学の在学生の 61%が、年収 950 万円 (日本人の所得上位 14%) の家庭出身である。

俺は一生懸命努力したから入学できたのだ、と言えども、誰しもそれ相当の努力はしている。努力が継続できる環境があったか否かが、成功の結果を生むということを考慮に入れなければならない。

世界に目を向けると、そこには広がる経済の不平等が現存する。上位 10%の富裕層が世界の富の 4 分の 3 を保有しているという現実。コロナ禍にあって深刻なワクチンの不平等。世界の先進国では概ねワクチン 1 回接種率は 70%を超える。ではアフリカ諸国ではどうか。13%である。なぜこのような格差が起こってくるのだろうか。競争で発展するという資本主義社会の必然なのか。

### 競争はよいことか

2002 年来日したブッシュ大統領は国会スピーチで“競争”に言及した。明治維新、西欧から入ったコトバ“コンペティション”(competition)に福沢諭吉が“競争”という訳語をつけたことが始まりである。1 世紀前にもたらされた競争というコトバ(=概念)が、日本の近代化を実現させたという。私たちの社会に勝者敗者をつくってしまうこの厳しい競争は、はたして人間社会にとってよいことなのだろうか。

エックハート・トールは著書『ニューアース』の中で、次のように述べる。「あなたがビジネスマンで、2 年間強いストレスと苛立ちに耐えて頑張って、一財産を築いたとしましょう。これは成功だろうか?」「一般的には成功である。しかし実際には、2 年間、自分の身体だけではなく地球もネガティブなエネルギーで汚し、自分自身も周りの人たちも惨めにしてきたのです」と。

### 適応から対応へ

人間にエゴ(欲望)がある限り、競争のカルマから抜け出すことはできないのだろうか。欲望、競争、格差、争い。欲の虜になった人間の正体、これは本能だ、と言って抗うことなくただ‘適応’するのか。それとも、本能の動きに‘対応’する策を考えるのか。

世の中には変えることが不可のもの(運)と、変えることが可のもの(実力)がある。人を取りまく自然環境、コロナの蔓延、この外的変化は人力では何ともかなわない。ダーウィンが言うように変化に‘適応’できる者のみが生き残ることができる。しかし人間が自らが作り出した欲望は、自らの知恵で‘対応’しなければならない。人間には欲望の暴走をストップさせ、共生の道をひらく知恵が備わっていると思うのである。



#### <事例 DVD>

マイケル・サンデルの白熱教室「君の成功は努力の結果?運?」2021/7/23  
 マイケル・サンデル著『実力も運のうち』早川書房  
 BSI スペシャル 欲望の資本主義 2021 格差拡大 2021/4/26  
 ブッシュ大統領来日スピーチ「競争」国会にて 2002/2/19  
 内橋克人「適応から対応へ」NHK「人間講座」2~3月 2005/1/1  
 大村はま『96歳の仕事』~人と比べない~  
 品格のない相撲 モンゴルから角界へ“最強の横綱への道”  
 映画「天使のくれた時間」人生に“もしも”(What if)があったなら  
 歌・「時計をとめて」あおい輝彦

円了のホームページ: [www.enryo.jp](http://www.enryo.jp)

